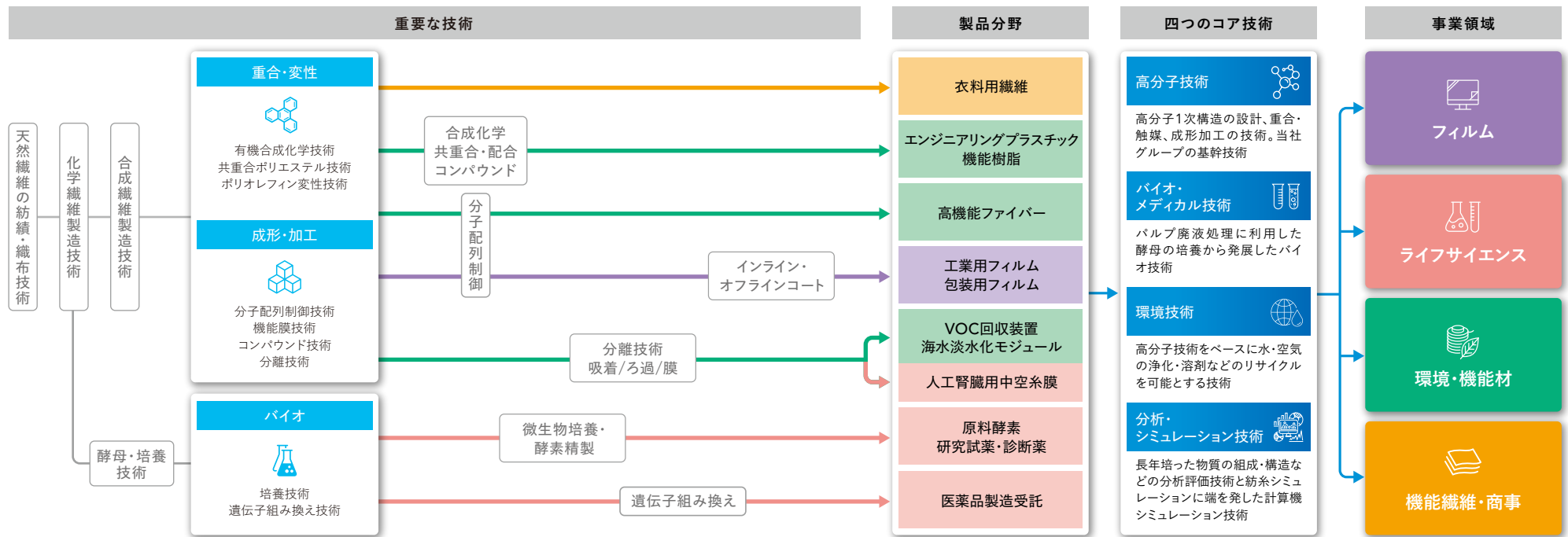


東洋紡の技術の変遷とあゆみ

技術を通じて社会のニーズ・課題に応え事業を発展

当社グループは、創立当初より技術開発を重視し、その成果は四つのコア技術として進化してきました。これらの技術を生かして、人と地球に求められるソリューションを創造し続けます。

技術と製品の関連図



事業の変遷

1882年 大阪紡績創立 紡績事業開始	1914年 大阪紡績と三重紡績が合併し 東洋紡績が誕生	1956年 アクリル事業進出	1970年 プラスチック事業進出	1982年 ライフサイエンス試薬分野進出	2002年 連結売上高で非繊維事業が 繊維事業を超過
1886年 三重紡績創立	1927年 レーヨン事業進出	1963年 フィルム事業進出	1972年 診断薬・原料市場進出	1991年 スーパー繊維事業進出	2009年 化粧品原料分野進出
			1978年 機能膜事業進出	1993年 医薬品製造受託事業進出	
			1979年 医療事業へ進出		

市場・社会課題

日本の産業発展	戦後復興、高度経済成長	安定成長期	進む情報化、国際化	高まる環境意識・デジタル技術の進化
<ul style="list-style-type: none"> 紡績業や製糸業など軽工業分野が活発化 	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染による公害問題の増加 モータリゼーションによる交通事故の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の快適性の追求 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の増加 世界各地で問題視される水不足 液晶テレビの普及 注目されるフードロス スマートフォンの普及 新型コロナウイルス感染症拡大

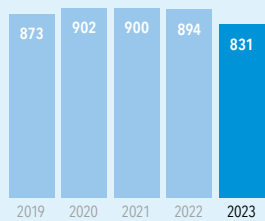
At a Glance

2024年3月末時点

Planet

CO₂排出量 (SCOPE1,2)

831 千トン-CO₂



生物多様性保全活動

「東洋紡 綾の森」が
OECMとして
国際データベースへ登録
自然共生サイトに認定



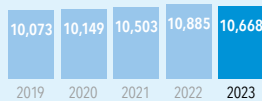
生物多様性のための30by30
アライアンスに参画



People

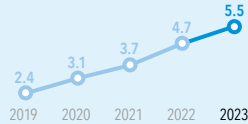
従業員数 (グローバル)

10,668 人



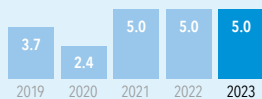
女性管理職比率

5.5 %



従業員1人当たりの教育投資額

5.0 万円



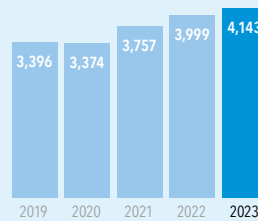
外部評価



Prosperity

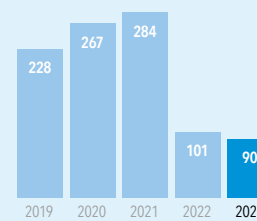
連結売上高

4,143 億円



連結営業利益

90 億円



市場シェア

液晶TVの
偏光子保護フィルム

60 %

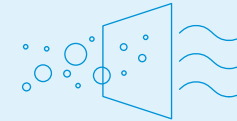


液晶TV市場のシェア (当社推定)

製品シェア

溶剤を回収する
VOC処理装置

No.1



繊維状活性炭を使用した
吸着回収式の装置としてトップシェア (当社推定)

外部評価



2024年6月時点

Innovation

コア技術

高分子技術



バイオ・メディカル技術



環境技術

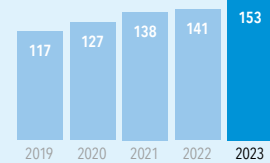


分析・
シミュレーション技術



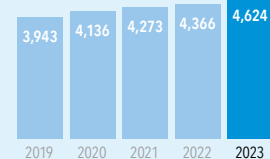
研究開発費

153 億円



特許保有件数

4,624 件



※西暦は年度

価値創造プロセス

企業理念：『順理則裕』

インプット

財務資本

- 連結総資産 6,070億円
- ポジティブ・インパクト・ファイナンス契約額 200億円
- サステナビリティ・リンク・ボンド起債額 100億円

製造資本

- 生産拠点数 23拠点
- 設備投資額 616億円
- 開発から生産まで連携できる生産施設のネットワーク
- エンジニアリング力

知的資本

- 主要研究開発拠点数^{※1} 3拠点
- 研究開発投資 153億円
- 四つのコア技術
- 発明報奨制度

人的資本

- 連結従業員数 10,668人
- 研究開発人材数^{※2} 511人
- 社内公募制度による異動者数(累計)^{※1} 17人
- 企業理念を実践する人材

社会関係資本

- 顧客・サプライヤーとの強固な関係
- 大学や他企業との連携
- 各種イニシアチブ参画

自然資本

- エネルギー消費量 2,810GWh
- 水資源取水量 86,815千m³
- 環境負荷低減に貢献する技術

2023年度実績

ビジネスモデル >p.12

「サステナブル・ビジョン2030」実現に向けた人と地球への価値創造サイクル

“モノづくり”から“ソリューション”提供へ



社会からの要請・課題

- 気候変動
- 地球環境
- 貧困・飢餓
- 人権・健康

創出価値

People 人

Planet 地球

Prosperity ゆたかさ

Well-Being ソリューション

革新医療デバイス
超早期診断試薬・機器

新循環プラスチック ソリューション

2050年
リニューアブルポリマー100%化

環境アクティブクリーン ソリューション

環境浄化
CO₂回収&利用

財務資本

- ROE 1.3%
- ROIC 1.3%

製造資本

- 地域ニーズ・需要・トレンドに見合う製品の提供
- エンジニアリング力の発揮による顧客ニーズに見合うソリューション創出・品質保証および生産性向上と生産技術の蓄積

知的資本

- 特許保有件数^{※1} 4,624件
- 営業との連携による顧客ニーズを反映した研究開発

人的資本

- 女性管理職比率^{※3} 5.5%
- エンゲージメントスコア(2022年度)^{※4} 55%

社会関係資本

- ブランド力
- CSR調達アンケート結果(1次サプライヤー)
アンケート回収率 94%
- 取り組み良好企業の割合 83%
- 産学連携などの共創成果

自然資本

- 環境配慮製品売上高比率^{※1} 31%
- エネルギー消費量削減率(前年度比) 4%
- GHG排出量削減率(Scope1,2前年度比) 7%
- 国内における再生エネルギー導入拠点数 3拠点
- SBT認定取得

2023年度実績

※1 東洋紡単体 ※2 東洋紡単体および東洋紡エムシー(株) ※3 東洋紡単体、東洋紡エムシー(株)および東洋紡STC(株)
 ※4 東洋紡単体、東洋紡STC(株)、(株)東洋紡システムクリエートおよび東洋紡せんい(株)(2022年当時)

東洋紡の強み

東洋紡グループは、140年以上の歴史で培った三つの強みと四つのコア技術を基盤として、価値を創造しています。
サステナブル・グロース実現に向けて、価値創造サイクルを加速すべく「強み」と「技術」を磨いていきます。

四つのコア技術

「サステナブル・ビジョン2030」実現に向けた
人と地球への価値創造サイクル

“モノづくり”から“ソリューション”提供へ

イノベーション

フェーズ4 次の需要の獲得

次のソリューションの創造

フェーズ3 事業化による課題解決

ソリューション創造

フェーズ2 課題解決策の検討

ソリューション検討

フェーズ1 課題認識

人と地球が抱える困りごとの把握

価値創造の基盤

TOYOBO PVVs

四つのコア技術

140年以上の歴史で培った強み

信頼

変化を受容し
変え続ける姿勢

改革を体現する
人と組織

マテリアリティ

環境・モノづくり領域 人的資本領域 事業基盤

社会からの要請・課題

気候変動 地球環境 貧困・飢餓 人権・健康

を通じて社会課題解決に
貢献する領域

高分子技術

概要

合成繊維導入時から蓄積された当社グループの基幹技術。高分子1次構造の設計、重合・触媒、成形加工の技術を幅広く利用した製品を提供します。

強み

繊維やフィルムで培われた分子配向の制御技術や高次加工技術を保有しています。また、樹脂の重合・変性技術を生かし、多様な高機能性樹脂を開発します。

主な製品例

- 超複屈折ポリエステルフィルム
- ラベル用透明リサイクルPETフィルム
- 超高強度ポリエチレン繊維
- ポリエステル系接着樹脂
- 熱可塑性ポリエステルエラストマー

バイオ・メディカル技術

概要

パルプ廃液処理に利用した酵母の培養から発展したバイオ技術。バイオ技術と高分子技術を高度に応用し、高い生体親和性を持つメディカル材料を提供します。

強み

研究用および診断用試薬を原料から最終製品まで一貫して開発・製造することができます。透析用CTA中空糸膜は、世界市場で高い評価を得ています。

主な製品例

- 診断薬酵素
- 遺伝子検査機器とその試薬
- 人工腎臓用中空糸膜

環境技術

概要

高分子技術をベースに水・空気の浄化や溶剤などのリサイクルを可能とする技術。ろ過技術と吸収・脱着技術を組み合わせることで空気（気体）と水（液体）の浄化を実現します。

強み

海水淡水化膜は中東沿岸諸国で長年の採用実績があり、シェア20%を保有しています。活性炭素繊維吸着材は当社グループが初めて工業化し、VOC吸着回収式でトップシェアを誇っています。

主な製品例

- 海水淡水化逆浸透膜
- 活性炭素繊維フィルター
- VOC濃縮装置

分析・シミュレーション技術

概要

長年培った物質の組成・構造などの分析評価技術と紡糸シミュレーションに端を発した計算機シミュレーション技術。

強み

販売・製造・開発各部門が一体となって分析・シミュレーションを進めています。科学的根拠をもって得られた定性・定量的結果に基づく、課題解決のためのソリューションを提案します。

主な製品例

- 製品性能発現機構の解明
- 製品欠点の要因分析と改善方策の提案
- 設計性能発現のための設備仕様検討
- 成形加工条件の検討

140年以上の歴史で培った三つの強み

社会から 獲得し続けてきた「信頼」

当社グループは安全・防災や品質保証、コンプライアンスの活動を通じて、創立から約140年以上、お客さまを始めとしたステークホルダーからのゆるぎない信頼を獲得し続けています。

- [安全防災 > p.45](#)
 [品質 > p.46](#)
 [コンプライアンス > p.44](#)

環境の変化に応じ、 事業内容を「自ら変え続ける姿勢」

お客さまからのあらゆる要望や事業環境の変化に対応できる技術力（製造、加工、研究開発など）を磨き、イノベーションを創出することで新たな事業を生み続けています。

- [イノベーション戦略 > p.29-30](#)

企業活動と改革を実行してきた 「人と組織」の存在

ステークホルダーからの要望に真摯に対応すべく、柔軟な発想ができる人材や組織風土を醸成してきました。

- [人材戦略 > p.22-28](#)

諸資本とビジネスモデル

東洋紡グループは、ビジネスモデルを支える諸資本を強化しながら、人と地球への価値創造サイクルを回すことで、素材の可能性を最大化した“モノづくり”と、一歩先を行く“ソリューション”を提供します。

東洋紡の価値創造サイクル

「サステナブル・ビジョン2030」実現に向けた人と地球への価値創造サイクル

“モノづくり”から“ソリューション”提供へ

イノベーション

フェーズ4 次の需要の獲得
次のソリューションの創造

フェーズ3 事業化による課題解決
ソリューション創造

フェーズ2 課題解決策の検討
ソリューション検討

フェーズ1 課題認識

人と地球が抱える困りごとの把握

価値創造の基盤

TOYOBO PVVs 四つのコア技術

140年以上の歴史で培った強み

信頼 変化を受け入れ変え続ける姿勢 改革を体現する人と組織

マテリアリティ

環境・モノづくり領域 人的資本領域 事業基盤

社会からの要請・課題

気候変動 地球環境 貧困・飢餓 人権・健康

フェーズ1 課題認識

構成要素

- 将来ニーズを見据えた課題設定
- 既存のお客さまだけでなく新たなお客さまからもファーストコールがかかる、困った時に頼られる関係性構築

特色

- 研究開発部門と営業部門との密な連携によりお客さまのビジネスの方向性をタイムリーにキャッチ
- 素材の知識・ノウハウを提供し、お客さまが求める価値を具体化

フェーズ2 課題解決策の検討

構成要素

- 従業員によるアイデア出し
- 素材の可能性の最大化

特色

- 研究開発・製造・営業部門間の密な連携により、お客さまが直面している課題の解決策を検討
- 専門性を生かした適切な素材の提案、素材の組み合わせによる付加価値を創出

フェーズ3 事業化による課題解決

構成要素

- 製品・サービス開発
- 製造・加工
- 販売

特色

- 部門間の密な連携によるお客さまニーズを反映した製品開発、適正なコストを追求
- ラボレベルから量産化に対応できるノウハウ
- 多品種少量生産に対応できる体制
- お客さまとの密なコミュニケーションを通じ、人と地球へのソリューションを創造
- 高い品質によるお客さまの満足と信頼を獲得
- 次のコールにつながるお客さまとの関係性構築

フェーズ4 次の需要の獲得

構成要素

- 一歩先を見据えた提案
- 継続的なソリューション創造
- 誠実なお客さま対応

特色

- お客さまからのファーストコールにつなげるためのフォロー体制
- 社内ネットワークを活用した“All 東洋紡”としての提案力
- 「素材+サイエンス」の磨き上げ
- 人と地球に求められるソリューション創造の追求

ビジネスモデルを支える資本

製造資本

資本の内容

- 23カ所の生産拠点
- 開発から生産まで連携できる生産施設のネットワーク
- エンジニアリング力

強化の方向性

- 確実な技術伝承制度の整備
- より一層の生産性向上に向けた取り組み
- 生産技術向上に向けた取り組み

知的資本

資本の内容

- 3カ所の主要研究開発拠点
- 四つのコア技術
- 発明報奨制度による発明の促進

強化の方向性

- 重点価値領域における専門人材の育成
- 研究開発・技術力強化に向けた取り組み
- デジタル化による開発効率向上
- エコレビュー制度の導入による環境配慮

人的資本

資本の内容

- 10,668人の従業員
- 511人の研究開発人材
- 企業理念を実践する人材

強化の方向性

- 多様な働き方の整備
- 新たなスキル獲得機会の提供
- 多様性の発揮による価値共創
- 人的資本充実にに向けた次世代人材の育成

社会関係資本

資本の内容

- 顧客・サプライヤーとの強固な関係
- 大学や他企業との連携
- 各種イニシアチブ参画

強化の方向性

- 人権デュー・デリジェンスの実施
- 環境デュー・デリジェンスの実施
- 研究助成など若手研究者の支援